会　報

一般社団法人　日本病理学会
〒113-0034
東京都文京区湯島 1-2-5
聖堂前ビル 7 階
TEL：03-6206-9070
FAX：03-6206-9077
E-mail　jsp-admin@umin.ac.jp
http://pathology.or.jp

一般社団法人日本病理学会　　第 322 号　　平成 26 年（2014 年）11 月刊

1.　細胞診講習会のお知らせ

2015 年細胞診講習会は，2 月 14 日（土），15 日（日）に慶應義塾大学で開催されます。P. 4 の「2015 年　細胞診講習会のおしらせ」をご参照の上，本学会ホームページ 11 月 4 日付記事

http://pathology.or.jp/news/whats/cytology2015.html

内「細胞診講習会受講申し込みサイト」よりご登録下さい。申し込み締切は 12 月 12 日（金）です。

2.　第 8 回診断病理サマーフェスト ― 病理と臨床の対話 ― 開催報告

公益財団法人がん研究会　がん研究所病理部　秋山　太
（第 8 回診断病理サマーフェスト担当世話人）

毎年の夏の恒例企画である日本病理学会主催『診断病理サマーフェスト』が，今年も開催されましたのでその概要を報告致します。

今年の診断病理サマーフェストは, 2014 年 8 月 23 日（土）13 : 30-18 : 50・24 日（日）9 : 00-12 : 00 に東京大学伊藤謝恩ホールで,「乳腺診療のための病理診断」をテーマに参加費 20,000 円（初期・後期研修医，大学院生 15,000 円）で開催されました。2014 年 5 月に申し込み受付が開始され，最終的な参加者は 331 名で，その内訳は日本病理学会会員 251 名（75.8%），非会員 80 名（24.2%）でした。非会員の主な内訳は，乳腺外科医 19 名，放射線科医 22 名，外科医 11 名，内科医 2 名でした。講師陣は必要最低限の人数に抑え，出来るだけ開催地である東京近郊に絞りました。

診断病理サマーフェストの目的は，病理診断の醍醐味・面白さを臨床医に知ってもらい，病理に興味を持つ臨床医を増やすことにあるという認識のもとに，病理と臨床の対話の中で病理診断の重要性をアピールできればと企画を練りました。テーマを「乳腺診療のための病理診断」とし，具体的には画像と病理の対比，外科療法と病理診断，薬物療法と病理診断というように乳腺診療の各領域に病理診断がいかに重要な役割を果たしているかを表現できるよう工夫しました。第一日目は病理と臨床の対話を主とし，第二日目は病理医向けの病理診断を主としました。第二日目の乳腺腫瘍の組織学的分類では，講演の後に講師による討論を取り入れてみました。

アンケート調査で 187 名の方からのいろいろなご意見を知ることが出来ました。病理診断講習会的な内容を期待されて参加された病理医には少々物足りなかったかもしれません。ハンドアウトにメモの欄を設けたために厚くなってしまいました。貴重なご意見を今後に活かせればと思います。総合評価では「非常に良かった」27%,「良かった」54%,「普通」13%,「要改善」3% という結果でした。

第 8 回診断病理サマーフェストは，多くの方々に支えられて無事に終わることが出来ました。参加して頂いた先生方，講師・座長の先生方，お世話して頂いた牛久哲男先生をはじめとする東京大学医学部人体病理学・病理診断学教室の先生方，菊川さんをはじめとする日本病理学会事務局の方々に深謝致します。最後に，このような機会を与えて下さった日本病理学会に御礼申し上げます。ありがとうございました。

3.　英国病理学会交流事業報告

国際交流委員会では，英国病理学会との交流事業を行っています。このたびの英国病理学会について，シニア研究者 1 名の招聘，ジュニア研究者 2 名の派遣がございましたので，その報告を掲載いたします。

（1）　シニア研究者招聘

笹野　公伸　　東北大学大学院病理診断学分野

2014 年 8 月 30 日 から 9 月 3 日まで英國ロンドンで開催された英國病理学会学術集会に参加した。今回は欧州病理学会と合同での開催となり欧州ばかりではなく中近東ロシア他などからもあわせて数千名の参加者があった。8/31 には Pathological Society/Japanese Society of Pathology Lecture として Ian Ellis 教授のご司会で Clinical relevance of AR and ER beta expression in triple negative breast cancers と題して講演を行った。

加えて英國病理学会の役員と今後の日英病理学会の交流に関して意見交換を行う事が出来た。

（2）　ジュニア研究者派遣

浅香　志穂

信州大学医学部医学科病態解析診断学講座

このたび日英病理学会国際交流事業の一環として，ヨーロッパ病理学会と英国病理学会の共催による，2014 年 8 月 30 日から 9 月 3 日までロンドンで開催された 26th European Congress of Pathology に参加させていただきました。さらにその後，ロンドンから鉄道で 2 時間程度に位置する，シェフィールドの University of Sheffield Health Sci-

ences Library Royal Hallamshire Hospital，その近郊のチェスターフィールドの Chesterfield Royal Hospital の施設見学をさせていただきました。

先に行われた学術集会では，ポスター発表をさせていただき，また英国病理学会 Trainee（後期研修医）によって企画･運営されたレクチャーやスライドセミナーに参加し，彼らとの意見交換の場を持つことができました。このような 20-30 代の若手病理医が運営する学術集会での企画は，我々日本の病理医にとっては斬新であり，Trainee の積極性や勤勉さを垣間見ることができました。

施設見学においては，シェフィールド大学の大学病院である Health Sciences Library Royal Hallamshire Hospital では，病理医教育の様子や，解剖施設，最新の研究施設を見学させていただき，地域の中核病院である Chesterfield Royal Hospital では，実際の病理診断の様子や切り出し業務などの病理標本の作製過程を見学させていただきました。病理教育や診断業務は日本のものとそれほど大きな違いはないと感じましたが，業務の効率性は特に重視されており，病理医の業務を補助する人材が日本より充足している印象でした。

今回の滞在期間において，日本と英国の病理の違いで最も印象に残ったのが，病理医の，特に Trainee の多彩さでした。英国では外国人や移民も医師として数多く受け入れられており，Trainee の人種，年齢は非常に様々で，女性病理医の割合も高い印象でした。多様な価値観が認められる風潮は好ましく感じつつも，個人が病理専門医と認められるための道のりは日本より厳しく，競争も激しいようでした。しかしその分，彼らはとても勤勉で，エネルギーにあふれ，高い志を抱いており，今後の自分の病理医としての生活に大きな刺激を与えてくれました。

このたびは，日英両国の病理学会の皆様のお力添えにより，このような大変貴重な経験をさせていただくことができました。心より感謝いたします。

(3)　ジュニア研究者派遣

渡邊　麗子　　静岡県立静岡がんセンター病理診断科

光栄にも今年の日英病理学会交流事業の一環として，第 26 回欧州病理学会学術集会（26th European Congress of Pathology）ならびに英国内の施設見学の機会を与えて頂きました。日本病理学会ならびに英国病理学会の関係者の皆様には，心より厚くお礼申し上げます。

学会期間中は，学術プログラムにあわせて聴講，最終日にはポスター発表と，通常の国際学会らしく過ごした一方，「日本病理学会からのお客様」としての別枠の歓待も頂き，オプションのツアーにも楽しく参加させて頂きました。これら英国流「おもてなし」を通して，お世話いただいた諸先生，さらには我々の身の回りを気遣ってくれた Trainee（後期研修医）達の優しい心根に触れ，今も感謝の思いでいっぱいです。学問的な話から病理業務，日常生活の些細な話まで，とくに Trainee 達とは以前から友人だったかのように，沢山話をしました。また彼らが大変よく勉強し，高い目的意識をもって勉強，研究に励んでいることも容易に理解でき，とくに Trainnee 達が企画開催したセッションは見事なものでした。

後半の施設見学に関しては，東北大学　笹野公伸先生に便宜を計っていただき，教授 Wells 先生のおられる Sheffield 大学病院，ならびにその近隣の Chesterfield Royal Hospital での見学の機会を頂き，信州大学の浅香志穂先生と 2 人 1 組となって，出かけて参りました。大学病院ではおもに研修医指導体制の現場が中心でしたが，午後には研究施設も見学させていただきました。基幹病院では「精度管理」の向上を目指した技師，医師との共同作業現場の随所に，非常に参考となる，あらゆるメッセージを読み取ることができました。ちょうど当院が，臨床検査質における国際標準化機構（ISO）の認定にむけて準備を始めた事もあり，作業の効率化，品質・サービスの向上を実現させるための方策について考える，非常によい参考例となりました。

多くの方々の協力と親切のおかげで，無事事業を遂行できたことに，改めて感謝致します。

お知らせ

1.　平成 26 年度乳幼児突然死症候群（SIDS）対策強化月間の実施について

11 月 1 日（金）から 30 日（土）までは標記強化月間です。詳細は以下厚生労働省ホームページご参照ください。

http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000062600.html

2.「図解による顕微鏡入門」技術講座について

日　時：平成 27 年 2 月 18 日（水）
場　所：機械振興会館別館 4 階
主　催：一般社団法人　日本オプトメカトロニクス協会
申込期限：平成 27 年 2 月 11 日（水）（定員になり次第締切）
問合せ先：一般社団法人 日本オプトメカトロニクス協会
電話：03-3435-9321　Fax：03-3435-9567
E-mail：info@joem.or.jp
URL：http://www.joem.or.jp

3.　日本光学会第 41 回冬期講習会について

テーマ：光と生体観察・計測
日　時：平成 27 年 1 月 22 日（木），23 日（金）
場　所：東京大学本郷キャンパス山上会館
主　催：一般社団法人　日本光学会

申込締切：平成 27 年 1 月 10 日（金）（定員になり次第締切）
詳細・申し込み：http://www.osj-jsap.jp/
お問合せ：日本光学会講習会事務局
Tel：090-9314-4401　Fax：03-3579-9756
E-mail：info@myOSJ.or.jp

4.　第 56 回藤原賞について

標記賞につき，本学会からの推薦を希望される場合は，事前に公益財団法人藤原科学財団ホームページ
http://www.fujizai.or.jp/download.htm
をご確認の上，12 月 26 日（金）までに本学会事務局宛ご連絡下さい。

5.　日中医学協会 2015 年度「共同研究等助成金」「若手在留中国人研究者助成金」募集

募集期間：平成 27 年 1 月 15 日まで
詳　　細：http://www.jpcnma.or.jp/
問い合わせ：財団法人日中医学協会
担当：岡田・金
電話：03-5829-9123　FAX：03-3866-9080
E-mail：jyosei@jpcnma.or.jp（中国語可）

2015 年　細胞診講習会のお知らせ

2015 年の細胞診講習会（一般社団法人病理学会，担当：病理専門医制度運営委員会）を開催いたします。病理専門医及び口腔病理専門医（平成 23 年度以降歯科医籍登録者から）受験資格の要件のひとつとして細胞診に関する講習会を受講していることがあげられております。2015 年以降受験予定の方で，未だ細胞診講習会を受講されていない方は，この講習会を受講して下さい。受講希望者は，本学会ホームページの申し込みサイトよりお申し込み下さい。定員（90 名）を越える場合は下記 6 に示す基準に従って選定させていただきます。

なお，2015 年の病理学会主催の細胞診講習会は今回 1 回のみです。

1. 日　　時：2015 年 2 月 14 日（土）9：00 ～ 17：15（第 1 日：受付，講義，実習，質疑）
2015 年 2 月 15 日（日）9：00 ～ 15：15（第 2 日：講義，実習，質疑）

2. 講　　師：長嶋　洋治（東京女子医科大学附属病院　病理診断科）
増田しのぶ（日本大学医学部 病態病理学系　腫瘍病理学分野）
中村　直哉（東海大学医学部 基盤診療学系　病理診断学）
清水　禎彦（埼玉県立循環器・呼吸器センター　病理診断科）
清水　道生（埼玉医科大学国際医療センター　病理診断科）
岡　　輝明（公立学校共済組合関東中央病院　病理科）
大城　　久（東京医科大学　人体病理学）
笹島ゆう子（帝京大学医学部　病理学）

3. 会　　場：東京都新宿区信濃町 35　慶應義塾大学医学部　東校舎 2 階講堂および地下実習室
世話人　　慶應義塾大学医学部病理学教室　　岡田　保典
実施責任者　慶應義塾大学医学部病理診断部　　亀山　香織

4. 受 講 料：33,000 円　（ハンドアウト・CD-ROM・昼食代込み）
採用通知とともに振替用紙をお送りします（1 月頃）。

5. 申込締切：2014 年 12 月 12 日（金）

6. 受講者の選定基準：1.　2015 年病理専門医試験を受験する方
2.　2016 年以降に病理専門医試験を受験する方
（平成 23 年度以降歯科医籍登録の口腔病理専門医受験予定者を含む）
*1, 2 の本講習会受講経験のない方を優先いたします　（定員 90 名）

7. 申し込み：本学会ホームページ　平成 26 年 11 月 4 日付記事「2015 年　細胞診講習会のおしらせ」サイト
http://pathology.or.jp/news/whats/cytology2015.html よりお申し込み下さい。

8. 問い合わせ先：一般社団法人日本病理学会事務局
E-mail：jsp-admin@umin.ac.jp　　TEL：03-6206-9070　　FAX：03-6206-9077

※参考：病理専門医試験申請要綱注意事項　より抜粋
（b）　細胞診に関する講習について
細胞診に関する講習とは，医師を対象とし全域を網羅したものであることが要件であり，現時点では日本病理学会主催による「細胞診講習会」および日本臨床細胞学会による「細胞診断学セミナー」のみが該当します。細胞診専門医は受講不要です（認定証写しを添付して下さい）。

日本医学会だより

JAMS News

2014年10月　No. 52
日本医学会

◆日本医学会シンポジウム

第146回シンポジウムは「がんの非侵襲的診断法の最前線」をテーマに，12月18日（木）13：00〜17：00，日本医師会館大講堂において開催する．組織委員は，坂元亨宇，西尾和人，藤井博史の各氏．参加申込みは郵便はがき，FAX，本会HP（http://jams.med.or.jp/）にて受付中．参加費無料．詳細はHPに掲載．

◆日本医師会・日本医学会合同シンポジウム

「子宮頸がんワクチンについて考える」をテーマに，12月10日（水）13：00〜16：30，日本医師会館大講堂において日本医師会と合同でシンポジウムを開催する（総合司会：小森　貴日本医師会常任理事．座長：髙久史麿日本医学会長）．詳細は本会HPに掲載予定．参加費無料．

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月3日に開催し，平成26年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した．

本選考は，日本医師会から日本医学会に委任されており，今年度の推薦数：医学賞19，奨励賞25を審査した．

選考の結果，11月1日の日本医師会設立記念医学大会において，今年度の医学賞は3名，奨励賞は14名に授与される．

選考の結果は下記のとおり．

〈日本医師会医学賞〉

・ピロリ菌による胃癌発症の分子機構/畠山昌則（東大・微生物学）
・癌の分子標的予防法の確立とその応用に向けての研究/酒井敏行（京府医大・分子標的癌予防医学）
・自己免疫疾患に対する分子生物学的解析/山本一彦（東大・アレルギー・リウマチ学）

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

・中枢神経・肝臓クロストークの分子メカニズムの解明/井上　啓（金沢大脳・肝インターフェースメディシン研究センター）
・筋萎縮性側索硬化症の新規モデル動物作成による発症病態の解明/河原行郎（阪大・神経遺伝子学）
・癌細胞特異的なTGF-βシグナル伝達制御機構の統合的同定解析/鯉沼代造（東大・分子病理学）
・癌上皮間葉移行におけるmicroRNA転写機構の解明/水口義昭（日医大・消化器外科学）
・下部尿路機能障害における全身および局所血流障害からみた病態解明と臨床応用/松本成史（旭川医大・腎泌尿器外科学）
・滲出型加齢黄斑変性の発症，進展における全身的因子の解析/柳　靖雄（東大・眼科学）
・超高齢化社会おける失明予防のための緑内障ビックデータによるデータマイニング/中澤徹（東北大・眼科学）
・遺伝性不整脈の新たな原因遺伝子と機序の解明ならびに個別化療法の確立/渡部　裕（新潟大・循環器内科学）

・心筋症の発症・進展における樹状細胞の意義/安斉俊久（国立循環器病研究センター）
・思春期特発性側弯症に対する次世代型3次元変形矯正固定術：アナトミカル・ロッドを用いたオーダーメイド外科治療への展開/須藤英毅（北大・脊椎・脊髄先端医学）
・内耳再生医療をめざした内耳薬物動態の解明/神崎　晶（慶大・耳鼻咽喉科学）
・ヒト人工多機能幹細胞由来心筋細胞 Extra-cellular matrix（ECM）グラフトを用いた心不全治療の開発/宮城泰雄（日医大・心臓血管外科学）
・増殖因子と細胞内シグナル制御による糖尿病網膜症の病的血管の再生治療/鈴間　潔（長崎大・眼科学）
・ヒト無精子症の病態解明および臨床医学への応用/宮本敏伸（旭川医大・産婦人科学）

◇日本医学会分科会利益相反会議

「医学研究のグローバル化と COI マネージメント」をシンポジウムテーマとした第5回日本医学会分科会利益相反会議を曽根三郎日本医学会利益相反委員会委員長の総合司会の下，11月28日（金）13：00〜16：20，日本医師会館大講堂にて開催する．参加希望者は，本会ホームページ（http://jams.med.or.jp/）にて，申し込まれたい．先着80名．参加費無料．

当日は総会に引き続き，「日本医学会分科会における COI マネージメントのアンケート結果報告」「フォルタレザ改訂ヘルシンキ宣言の基本理念と臨床研究―作業部会の一員として―」「欧米の臨床研究にかかる COI マネージメントの現状と動向」「製薬企業による研究機関への研究支援とその公開の在り方」「臨床研究にかかる企業の役務提供をどう考えるか」のそれぞれの講演が行われる予定．

◇日本医学雑誌編集者会議

「不正論文と編集者の責務」をシンポジウムテーマとした第7回日本医学雑誌編集者会議（JAMJE）総会・第7回シンポジウムを北村聖日本医学雑誌編集者組織委員会委員長の総合司会の下，11月5日（水）13：00〜16：30，日本医師会館大講堂にて開催する．参加希望者は，本会ホームページ（http://jams.med.or.jp/）にて，申し込まれたい．先着80名．参加費無料．

当日は総会に引き続き，「編集ガイドラインと COI」，「統一投稿規定から“Recommendations”へ：ICMJE2013年改訂」，「COPE とそのガイドライン」，「研究不正行為の実効性ある対応に向けて」，「ミスコンダクトと学会の対応―日本高血圧学会のケース―」，「不正論文の元凶：ピペドと IF」のそれぞれの講演が行われる予定．

◇移植関係学会合同委員会

第32回移植関係学会合同委員会が9月19日，厚生労働省で開催された．脳死下臓器移植の進展を踏まえ，より効果的な施設認定・取り消しを行う仕組みの検討が協議された．従来，移植施設が患者を日本臓器移植ネットワーク（JOT）に登録する際は臓器別の関係学会による適応検討を受けていたが，今後は一定の基準を満たした施設であれば施設内の適応評価のみで JOT への登録を可能とすること，関係学会は移植の実施状況について事後的に把握すること等が承認された．今後，厚労省にガイドラインの改正について検討を求めることになった．